

農作物生産情報 (令和元年9月)

気象

(令和元年8月23日 仙台管区気象台発表 東北地方3か月予報より)
天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、高い確率50%です。

水稲

ほ場ごとの登熟の進み具合をよく確認して、適期刈取に努めよう！

1 出穂の状況

今年の管内全体の出穂最盛期は8月3日で、平年より2日早かった。
8月は高温傾向にあることから、登熟は平年より進んでいると想定される。

■ 市町別の出穂状況

市町名	出穂始		出穂最盛期			出穂終	
	本年	平年	本年	平年	平年差	本年	平年
五所川原市	8/1	8/2	8/3	8/5	早2日	8/7	8/10
中泊町	8/1	8/1	8/3	8/4	早1日	8/7	8/9
板柳町	8/2	8/3	8/4	8/6	早2日	8/7	8/9
鶴田町	8/1	8/2	8/3	8/5	早2日	8/6	8/9
つがる市	7/31	8/2	8/2	8/4	早2日	8/5	8/8
鱒ヶ沢町	7/28	7/31	8/1	8/4	早3日	8/5	8/9
深浦町	7/29	8/1	8/2	8/5	早3日	8/5	8/10
西北全体	7/31	8/2	8/3	8/5	早2日	8/7	8/10

注) 出穂始は5%、出穂最盛期は50%、出穂終は95%の面積が出穂期に達した月日である。

2 刈取時期の判断方法

刈取りが早すぎると未熟粒の混入が多くなり、遅れると茶米や奇形粒、胴割粒などの被害粒が増加する。

登熟の進みには、ほ場差、地域間差があるので、次の表を目安に、ほ場ごとの登熟の進み具合をよく確認して、総合的に刈取時期を判断する。

■ 出穂後積算気温からみた刈取適期の期間

まっしぐら	出穂後積算気温で960~1,200℃
つがるロマン	出穂後積算気温で960~1,150℃
青天の霹靂	出穂後積算気温で900~1,100℃

(1) 出穂後積算気温からみた刈取時期の予想 (8月27日現在)

主な品種ごとの出穂後積算気温でみた刈取適期の予想は、下表のとおりです。
なお、この予想適期はあくまで目安であり、刈取りはほ場の状況を見ながら総合的に判断する。

■ 出穂後積算気温でみた「まっしぐら」刈取適期の予想

出穂期	960℃到達予想日	1,200℃到達予想日
7月31日	9月10日	9月23日
8月3日	9月14日	9月28日
8月7日	9月20日	10月4日

■ 出穂後積算気温でみた「つがるロマン」刈取適期の予想

出穂期	960℃到達予想日	1,150℃到達予想日
7月31日	9月10日	9月20日
8月3日	9月14日	9月25日
8月7日	9月20日	10月1日

■ 出穂後積算気温でみた「青天の霹靂」刈取適期の予想

出穂期	900℃到達予想日	1,100℃到達予想日
7月31日	9月7日	9月17日
8月3日	9月11日	9月22日
8月7日	9月17日	9月28日

注) 五所川原アメダス値を使用し、8月26日までは本年値、それ以降は平年値を用いて算出。

(2) ほ場ごとの刈取開始期の目安

籾の黄化程度	① 「まっしぐら」・「つがるロマン」 ほ場全体の籾が、90%程度黄化した時期 ② 「青天の霹靂」 ほ場全体の籾が、85%程度黄化した時期
枝梗の黄化程度	枝梗の2/3程度が黄化した時期
青未熟粒の混入割合	青未熟粒の混入率(1.9mm選別、重量比)が、10%程度まで減少した時期
籾水分	25~26%程度まで減少した時期

< 語句説明 >

出穂後積算気温：出穂期の翌日からの毎日の平均気温を合計した値

出穂期：ほ場全体の40~45%が出穂した日

『令和元年産あおもりの旨い米グランプリ』のお知らせ

- 1 出品対象者
県内在住の水稲生産者
- 2 出品対象
県内で生産された令和元年産の「青天の霹靂」、「つがるロマン」、「まっしぐら」
- 3 受付方法
 - (1) 申込受付
令和元年9月30日（月）～10月30日（水）の間に申込書を西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室又はつがる分室へ申込み
 - (2) 玄米提出
玄米2kgを令和元年10月15日（火）～10月30日（水）の間に西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室又はつがる分室へ提出
- 4 その他
 - (1) 出品料は無料
 - (2) 出品は1生産者1点
 - (3) 出品した玄米の返却はなし
 - (4) 玄米水分16%以上の場合は審査対象外とする

問い合わせは西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室又はつがる分室へ!!

秋の農作業安全運動展開中 8月15日～10月31日

- 慣れた作業でも油断せず、注意して行いましょう。
- 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。
- 自分を過信せず、無理のない作業を行いましょう。
- 家族に作業場所を伝え、携帯電話を持ちましょう。
- 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼び掛けましょう。

畑 作

◆ 大 豆 ◆

病害虫防除をしっかり行い、収量、品質を確保しよう！

1 病害虫防除

9月上旬までに、紫斑病、マメシクイガの防除を行う。

2 その他の管理

- (1) ほ場の滞水で収穫作業に支障が生じないように、溝切りなどの排水対策を行う。
- (2) 汚粒の原因となる、わい化病株や雑草の抜き取りを収穫前までに行う。

◆ 小 麦 ◆

ほ場整備、排水対策をしっかり行い、生育を確保しよう！

1 ほ場の準備

転作田では、雪解けが早く排水が良いほ場を選び、明きょや弾丸暗きょ等を施工し、融雪水の排水対策を行う。

は種精度、出芽率、除草剤の効果向上のため、砕土と整地はていねいに行う

2 施 肥

基肥は成分で、10 a 当たり窒素 7～8 kg、リン酸12～15kg、カリ 9～10kgを基準に、地力、連作年数、前作を考慮して増減する。

また、土壌pH6.0以下では生育が悪くなるので土壌診断に基づいて石灰資材を施用し、土壌酸度を矯正する。

3 種子消毒

紅色雪腐病の保菌種子の持ち込みによる被害を防止するため、ベフラン液剤25（塗抹処理）及びキンセット水和剤80など（乾粉衣または湿粉衣）で種子消毒を行う。なお、使用前には必ず最新の農薬登録情報により使用方法及び使用基準を確認する。

4 は種期

は種適期は9月15～25日であり、は種量はドリル播きで10 a 当たり 8～10kgとする。なお、は種時期が9月末以降にずれ込む場合は、は種量を 2 kg/10a程度増やす。

5 雑草防除

耕起前に、ほ場に雑草が繁茂している場合はラウンドアップマックスロードを茎葉散布する。

は種直後及び発芽前は、ロロックスやトレファノサイド乳剤、ガレースGなど（いずれも全面土壌散布）を使用する。なお、使用前には必ず最新の農薬登録情報により使用方法及び使用基準を確認する。

りんご

十分味をのせた良食味のりんごを適期に収穫しよう！

ふじの肥大（県生育観測ほ：板柳町五幾形）は、8月21日現在、横径7.7cmで、平年（7.1cm）を上回っている。

つがるの熟度（りんご研究所調べ）は、平年よりやや進んでいる。

1 つがるの収穫

- (1) 収穫始めは9月7日頃からと見込まれる。
- (2) 収穫が遅れると軟質化など品質低下につながるため、果肉の熟度に合わせて適期に収穫する。
- (3) 熟期が揃わないので、着色、地色、硬さなどを見て2～3回に分けて収穫する。
- (4) 収穫した果実は、高温下に置くと果肉の軟化、油上がりが早くなるので、速やかに冷蔵施設に搬入する。
- (5) ストッポール液剤の散布後7日間、ヒオモン水溶剤の散布後4日間は収穫できないので注意する。

2 中・晩生種の管理

- (1) 「樹上選果」の徹底
着果量の多い園地では、収穫時まで随時、黒星病などの病虫害被害果、鳥害果、日焼け果などの障害果を摘み取る。
- (2) 着色手入れ
早くからの強い葉摘みは、鮮やかな色が着かないばかりか食味の低下につながるため、葉摘みはやや着色が進んだ頃から始める。

■ 平年の実施時期

品 種	除袋時期	着色手入れ
早生ふじ	—	9月10日～10月1日
紅玉	—	9月15日～30日
ジョナゴールド（有袋）	9月15日～25日	9月25日～10月5日
ジョナゴールド（無袋）	—	9月20日～10月10日
陸奥	9月25日～10月5日	10月5日～10日
ふじ（有袋）	9月20日～10月5日	10月5日～25日
ふじ（無袋）	—	9月25日～10月25日

ア 除袋時の注意

外袋をはぐときは、果実に密着している葉を摘み取る。内袋は果実の色が黄色みがかかった時、あるいは薄い縞が入った時（晴れた日が3～5日続いた後）にはぐ。

日焼けを防ぐため、二度はぎ用二重袋の内袋をはぐ場合、または一度はぎ用二重袋をはぐ場合は、曇天日又は晴天日の10時～14時（果面の表面温度が高くなる日中）とする。

イ 摘葉剤「ジョンカラープロ」を利用する場合

「ふじ」のみを対象とし、収穫40～50日前（9月中旬頃）に500倍液を10a当たり400～700ℓ散布する。展着剤ブラボー1,000倍を加えると効果が高まり、安定する。

散布後30日間は収穫できないので注意する。

散布後、低温や降雨が続くと効果が不十分だったり、極端な高温では過剰落葉となるので、できるだけ温暖（平均気温：17～19℃）で好天が予想される時に散布する。

3 トキの収穫

昨年は早もぎにより、トキの評価を著しく下げた。トキを末永く愛される品種にするため、周りに惑わされることなく、糖度が14度以上になった頃をメドに収穫に取りかかる。

- (1) 平年の収穫始めは9月30日頃である。
- (2) 熟期が揃わないので、3回程度のすぐりもぎを行う。その場合は、表面色指数* 3～5の果実が全体の半量程度に達したら1回目の収穫を行い、2回目以降も表面色指数4に達した果実を速やかに収穫する。
- (3) 表面色指定5以上の果実は、食味は良いが、貯蔵中に軟質化する場合がありますので即売向けとする。

※ 黄色品種青森県標準カラーチャート(青森県りんご協会発行)の指数を参考とする。

4 病虫害防除「農薬はりんご園以外、他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。」

- (1) すず斑病・すず点病

例年発生の多い園地や9月中旬に長雨が見込まれる場合は、中・晩生種の無袋果を対象に、9月15日頃にオーソサイド水和剤80 800倍、ストライド顆粒水和剤 1,500倍、トップジンM水和剤 1,500倍のいずれかを果実に十分にかかるように特別散布する。また、早生種に飛散しないよう注意する。

- (2) 黒星病

黒星病の発生している園地では、病原菌の密度を下げるため、着色手入れのために葉摘みした葉はかき集め、土中に埋めるなど適切に処分する。

また、発生の多い園地では、秋季感染を防ぐため9月15日頃に行うすず斑病・すず点病の特別散布の際は、基準薬剤の中から、オーソサイド水和剤80 800倍又はストライド顆粒水和剤 1,500倍を選択する。

- (3) モモシンクイガ

被害果は見つけ次第摘み取り、7日以上の水漬けなど適切な処置をする。また、もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源となるので、適切な管理を行う。

5 風水害対策

(1) 事前対策

台風等の気象情報に注意するとともに、防風網や支柱などを再度点検し、補強や取替えを行う。特に、幹などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害等を受けている枝や樹、幼木に対しては念入りを行う。

(2) 事後対策

ア 倒木した場合は、早めに起こして支柱で支える。

イ 枝が裂けた場合、回復可能なものは、その先の枝量を減らして、ロープで固く縛るか、かすがいなどで固定する。

ウ 浸水した園地では、速やかに排水する。

エ 冠水した場合、有袋果は直ちに除袋する。また、果実や葉に付着した泥は清水で洗い落とす。

ぶどう

適正な管理で、消費者に美味しいぶどうを届けよう！

1 収穫時期の判定

(1) スチューベン

ア 着色日は8月22日（鶴田町境）で平年より7日早かった。

イ 収穫は、果皮の着色だけで判断せず、糖度（18度以上）を測定するなど確認し、十分味がのったものを収穫する。

(2) その他の品種

キャンベル・アーリーは糖度が上がらなくても良く着色し、また、黄色品種のナイヤガラ、ポートランド及びシャインマスカットは果皮色の変化が少なく外観上から収穫時期を判定するのは難しいため、収穫に当たっては、必ず糖度を測定する。

■ 平年の収穫時期と収穫時の目安

品 種	収穫時期	果皮色	糖度(%)
ポートランド	9月上旬	黄緑	14
キャンベル・アーリー	9月中旬	紫黒	14
サニールージュ	9月中旬	紫赤～赤褐	17
ナイヤガラ	9月下旬	黄緑	15
スチューベン	10月上旬	紫黒	18
シャインマスカット	10月上旬	黄緑	18

2 収穫時の留意事項

(1) 収穫は朝夕の果実温度が低い時間に行う。

(2) 完熟果でも降雨があった直後は糖度が低下するほか、輸送中の腐敗が多くなるので、なるべく晴天時に収穫する。

(3) 収穫した果実は病虫害の被害果や未熟果、小粒果等を除き、房の大きさや着色程度、品質等により選別する。

3 スチューベンの病害対策

(1) 灰色かび病

長期貯蔵向けのスチューベンを対象に、フルーツセイバー 1,500倍を8月下旬～9月上旬に10a当たり250㍓散布する。使用時期は、収穫7日前までで、果面汚染を防ぐため展着剤は使用しない。

(2) ベと病

発病葉や発病果房は見つけ次第、摘み取り、また、被害落葉も集めて処分する。排水不良園では、排水溝を掘って、雨水が長く溜まらないようにする。

住宅の近くでは爆音機の使用を控えましょう

住宅近くでの爆音機の使用は迷惑です。使用を控え、防鳥網、電子防鳥機、防鳥カイト、防鳥テープ等の設置で鳥害を防ぎましょう。

トマト

気温の低下に伴う裂果の発生を防ぐため、適正なかん水と追肥、保温に努めよう！

1 裂果対策

- (1) 裂果発生軽減のため、かん水は摘心後約30日まで行う。かん水量は 1.5㍓/株とし、かん水間隔は1～2日おきとする。
- (2) 追肥が多いと裂果が多くなるため、追肥は最終花房のトマトトーン処理終了までとする。ただし、肥料不足の場合は、9月中旬以降1～2回追肥を行う。
- (3) 気温の低下とともに裂果が多くなるので、夜温が15℃を下回る場合は保温に努める。

2 エスレル処理

10月中旬以降は気温が急激に低下し着色が進まないため、9月下旬から白熟期になった果房ごとにエスレル10を散布して着色を促進する。

散布時期	倍数	散布液量	散布回数
9月25日～10月5日	300倍	5ml / 1果房	1果房につき1回

注) 散布時や散布後2～3日間は、ハウス内の気温を30℃以上にしない。

3 病虫害防除

気温が低下し、降雨が増えるとともに、灰色かび病、疫病、葉かび病の発生が増加するので、予防防除に努める。また、うどんこ病、アザミウマ類、タバコガ類、オンシツコナジラミについても防除を行う。

花き

温度管理を徹底し、高品質な花きの生産に努めよう！

◆キク◆

1 今後の作業

- (1) 収穫が終わった株を親株とする場合、病虫害被害のない健全なものを選ぶ。
- (2) 親株は地際部から約10cmの高さで刈り込み、直ちに追肥し、土寄せする。追肥量は窒素成分で0.2～0.3kg/aを目安とする。
- (3) 秋ギクの10、11月出荷栽培では、奇形花の発生を防ぐため高温時には換気を十分に行い、必要に応じて循環扇や寒冷紗等を活用し、施設内温度を少しでも低く管理する。

2 病虫害防除

白さび病、オオタバコガ、アブラムシ類等の発生に注意し、適期に防除する。

特にオオタバコガの幼虫は、生長点や蕾に侵入し、著しく商品価値を落とすため、作用機構の異なる薬剤を定期的にローテーション散布し、防除の徹底と薬剤抵抗性の発生を予防する。また、ハウスの出入口やサイドに防虫ネット（目合い：4×4ミリ程度）を設置し、成虫の侵入を防ぐ。

◆トルコギキョウ◆

1 今後の作業

- (1) 抑制作型では、ハウス内温度が日中25℃を超えないように換気に努める。夜温が15℃を下回るようになったら、夜間はハウスを閉める。発蕾期以降は、固く仕上げるため、かん水を控えめにする。
- (2) 越冬作型では、9月上旬までには種を行い、発芽までは20～25℃、発芽後は15℃前後を目標に管理する。定植は10月下旬頃までに行う。

2 病虫害防除

上記キク参照。

◆りんどう◆

収穫後の管理

収穫後に遅れて出てくる花や蕾は早めに折り取り、株の充実を図る。残渣は病虫害のもととなるので、ほ場から取り除き、深く埋めるか、適正に処分する。

定期的な病虫害防除を行い、翌年の病虫害の密度をなるべく減らす。

農薬の適正使用と隣接農地への飛散防止に十分気をつけましょう

- 使い残した農薬などは、河川等へ絶対捨てない。
- 農薬を使用する場合には、必ず最新の「農薬登録情報」を確認しましょう。
- 農薬は鍵のかかる専用の場所に保管し、管理を徹底しましょう。